

業の始まりを支えた幕末の1人のテクノクラートの生涯とその事績を、海外にまで広く渉猟した史料を基に、情に流されることなく淡々とした筆致で描いており、非常に爽やかな読後感を覚える。気象学の歴史に興味を持たれる方に一読をお薦めしたい好著である。

なお、荒井郁之助については、古くは日本気象学史

(荒川秀俊著、1941年)や本誌第2巻(1954年：堀内剛二)に簡単に紹介されており、さらに最近では根本順吉氏が「日本の創造力」第3巻(日本放送出版協会、1993年)にまとめられていると共に、雑誌「気象」に現在連載しておられることを付記しておく。

(気象研究所 藤谷 徳之助)



教官公募のお知らせ

高知大学理学部情報科学科

- | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. 公募人員 理学部情報科学科助手 2名</p> <p>2. 専門分野 情報科学、情報工学分野で研究歴があり教育及び研究に意欲のある方</p> <p>3. 応募資格 博士の学位を有するか、または取得見込みのある方</p> <p>4. 着任時期 平成7年4月1日</p> <p>5. 提出書類</p> | <p>5) 推薦書(自薦の場合は意見を述べることの出来る方)</p> <p>6. 応募締切 平成7年1月9日(月)必着 封筒に「応募書類在中」と朱書き、書留郵便で送付のこと</p> <p>7. 宛先及び問い合わせ先</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
- 〒780 高知市曙町2-5-1
高知大学理学部情報科学教室
楠瀬 昌彦
TEL 0888-44-0111 (交換)
0888-44-8333 (ダイヤルイン)

第13回風工学シンポジウム開催案内

[共催] 日本学術会議災害工学研究連絡委員会風工学専門委員会、電気学会、土木学会、日本気象学会、日本建築学会、日本鋼構造協会、日本風工学会（幹事学協会）

「第13回風工学シンポジウム」を関連学協会共催で下記のとおり開催し、研究情報の交換と相互の親睦をはかることになりました。会員各位におかれましては、下記要領によりふるってご参加下さいますようご案内申し上げます。

1. **開催期日**：1994年11月30日（水）、12月1日（木）、12月2日（金）
2. **会場**：日本学術会議講堂
（東京都港区六本木7-22-34）
交通機関：地下鉄千代田線乃木坂 徒歩2分
3. **資料代**：7000円
4. **定員**：350名
5. **参加申し込み要領**
 - (1) 申し込み期限：1994年11月11日（金）
（当日も受け付けます）
 - (2) 申し込み方法：住所・氏名を明記し、資料代等を同封のうえ現金書留でお申し込みください。

(3) その他

- ① 参加券は論文集に同封し11月中旬に送付します。
- ② 原則として参加申し込みの取り消しがありません。資料代の払戻は致しませんのでご了承下さい。
- ③ 締め切り期日前でも定員になり次第申し込みを締め切りますので、なるべくお早めにお申し込み下さい。
- ④ 問い合わせ先
〒106 東京都港区六本木7-22-1
東京大学生産技術研究所 第5部
村上・加藤研究室内
第13回風工学シンポジウム運営委員会事務局
（担当 持田）
TEL 03-3401-7439 FAX 03-3746-1449

6. 懇親会

下記により懇親会を開催致しますので、参加ご希望の方はシンポジウム参加申し込み時にお申し込み下さい。

- ① 日時：1994年12月1日（木）
（シンポジウム第2日目終了後）
- ② 会場：はあといん乃木坂
- ③ 会費：6000円



第11回「しんかいシンポジウム」開催のお知らせ

開催日時：平成6年12月14日（水）9：30～18：00
15日（木）9：00～18：00

場所：コクヨホール
（JR品川駅港南口下車 徒歩1分）
東京都港区港南1-8-35
（TEL 03-3450-3712）

参加費：無料
予稿集：当日配布（無料）
主催：海洋科学技術センター
横須賀市夏島町2-15（TEL 0468-66-3811）
問い合わせ先：深海研究部 藤岡（内線411）
橋本（内線433）



平成6年度気象研究所研究発表会の御案内

気象研究所では、研究発表会を以下のとおり開催します。なお、今年度はモデルシミュレーションを中心に発表会を行いますので、関心をお持ちの方は、奮って御来場下さい。

1. 日時：平成6年11月29日（火） 11：00～17：00
2. 場所：気象研究所講堂
（茨城県つくば市長峰1-1）

3. プログラム

《午前》

- 1) 富士山頂における自由対流圏オゾンの測定
堤 之智・財前 祐二・牧野 行雄

《午後》

- 2) 多様な地表面の大気モデルのためのモデル化
高橋 俊二
- 3) 静水圧モデルと排静水圧モデルとの比較実験
～将来の高分解能気象予報モデルを睨んで～
加藤 輝之・斉藤 和雄
- 4) プランバグ・メラモデルを使った沿岸海況
のシミュレーション
湊 信也
- 5) 全球大気海洋結合モデルの開発
野川 彰・行本 誠史・本井 達夫

お問合せ：気象研究所企画室

TEL. 0298-53-8534 岡田
または8539 西井

編集後記：トラブルが少なく優秀だった気象衛星「ひまわり4号」も先月その設計寿命の5年を経過しました。この後を引き継ぐ「ひまわり5号」が来年2月1日にH2ロケット3号機で打ち上げられる予定になっています。

今度の「ひまわり」では、これまでの赤外、可視の2つのセンサーから、赤外センサー3つと可視センサー1つの合計4つのセンサーになります。新しい3つの赤外センサーのうち2つはこれまでの赤外センサーの波長域（大気の窓領域）を2つに分割した波長域を持ち、それぞれを赤外1、赤外2チャンネルと呼びます。また2つを合わせてスプリットウィンドウチャンネルと呼びます。残りの1つは水蒸気による吸収が大きい所の波長域で観測し、これを水蒸気チャン

ネルと言います。

このようなセンサーの増加に伴って、画像処理などの様々なプロダクトの変更が必要となるので、気象庁などの関係者は現在その対応に奔走しています。本誌の口絵「日々の衛星画像」のコーナーでは、「ひまわり5号」運用開始後は赤外1チャンネルの写真を掲載していく予定です。これは今までの赤外画像と見かけ上はほとんど変わりありません。

新しい「ひまわり5号」の画像からはこれまでよりもさらに多くの情報が取り出され、大気の状態の把握などに大いに貢献することが期待されています。先日の「きく6号」のようなことにならないように願っています。

（大野 智生）